

自治の歴史から 過去を知り、未来を創る

昇 秀樹 教授

Prof. Nobori Hideki



都市と自治

2年後期／専門部門（財政行政科目群）

歴史を紐解きながら都市と自治を考える

— この「都市と自治」は、どんなことを学ぶ講義ですか？

都市（自治体）が、国（中央政府）との関係で、どのようにして自治を獲得してきたのかを考えていきます。この講義では、古代・中世の都市国家の歴史を学んだうえで、**近現代の主権国家の登場、それとともに国と都市の関係がどのように変わってきたのか**についても見ていきます。グローバル資本主義の現代において、日本という国家単位は経済圏としては狭すぎるとも言われています。その考え方で誕生したのが、欧州連合「EU」です。**講義でも、EUと国・都市の関係がどう変わるのか、その中で自治の意味がどう変わっていくのか**を考えています。

— この講義で、学生にはどんなことを学んでほしいですか。

日本には、現代の都市を築いてきた長い歴史があります。ときには血を流すことで「都市の自治」を獲得してきました。ものごとを考えるうえで、**歴史的な視点はとても大切。すべての事柄に歴史があり、何らかの理由があって変化して現在がある**ということ、**この先も変化をし続けていく可能性、必要性がある**ということを知ってほしいですね。どんな政治にも、メリットとデメリットがあります。自由民主主義もそのひとつに過ぎません。現在を分析するためにも、未来を創造していくために

も、歴史を知り深めることの大切さ、覚えるだけでなく理解することの重要性を伝えています。

自治を学ぶこと、生き方考えること

— 歴史を学ぶことで、その考え方も学んでいくのですね。

自治を学ぶということは、自分の人生設計を考えることにも繋がると思います。いろいろな自治の形態があるように、自らの生き方にもさまざまな道、身の置き方があります。**マクロな視点を持ち、自治を自らのアナロジー*として身につける**ことができれば、人生の岐路に立ったときに自分らしい選択ができるのではないのでしょうか。

※未知の物事・深く知らない物事を既知の物事に当てはめて推論する思考方法。

— 都市情報学部で、どんな学びを経験してほしいですか。

大学とは、教養を身につける場です。大学で学ぶことは、もしかしたらすぐには役に立たないかもしれませんが、10年、20年経ったときにじわじわと役に立つことも多いです。**自分の生きていく上での指針、ものの考え方、その知見は、ずっと長く使える宝になる**と思います。明日明後日ではわからないかもしれませんが、「あのとき先生が言っていたのはこういうことか」といつか思ってもらえたら嬉しいです。

学生におすすめの一冊

知的生産の技術

梅棹忠夫 著（岩波書店）



1969年発行のロングセラー。読書の方法、文章の書き方などさまざまなテーマを、WhatではなくHowで教えてくれる本です。昔はこういった方法論を教えてくれる本はなかったので重宝していましたし、今読んでも頷ける、本質を突いた内容だと思います。梅棹さんの考え方は本当に素晴らしい。僕のバイブルです。

学生の声



山添 浩暉さん（3年生）

教科書の内容だけでなく、国内外の時事問題を多く取り上げてくださるので、海外情勢にも詳しくなりました。ミニミニレポートと評した課題があり、提出は任意ですが、これにより学生の理解度を把握して進めてくださっていると感じます。先生はとてもお茶目な人で、ゼミでは僕らをよく笑わせてくれます（笑）。